



# 鹿角高校進路通信

第7号 秋田県立鹿角高等学校進路指導部 令和8年2月28日発行

## 3年生の進路活動より

就職・進学を含めた本校の3年生全体の進路内定率は92.9%（2月27日現在）となっています。3年生が取り組んできた様々な進路活動やセミナーの中から、今回は年が明けてから行われた進路活動等の一部を紹介します。

### <探究発表会> <産業工学科課題研究発表会>

今年度の学校祭(鹿フェス)では、3年生の人文探究コース・理数探究コースの探究発表会が行われましたが、12月には未来創造コースの探究発表会がクラスごとに行われました。また、1月には産業工学科の課題研究発表会が行われ、産業工学科の1・2年生が3年生の発表を聴いて、その成果を学びました。

探究発表会の様子



産業工学科課題研究発表会の様子



### <租税教室> 1月15日(木) <スーツ着こなし講座> 1月22日(木)

税金の役割や租税制度について学ぶ「租税教室」、新生活に向けてフォーマルな場での身だしなみ等について学ぶ「スーツ着こなし講座」が、それぞれ講師の方を招いて行われました。納税は憲法に定められている国民の義務の一つですが、税を納めることに加え、税の集め方や使われ方に関心をもって意見を発信していくことも求められているのだと改めて学ぶことができました。また、高校在学中は公的な場で当たり前のように学校の制服を着用していましたが、これからは自分で選んだスーツ等を着用する機会も多くなると思います。高校卒業を間近に控えた皆さんにとって、いずれも大いに参考になる教室や講座であったと思います。

スーツ着こなし講座の様子



大学入学共通テスト激励会の様子

## 大学入試が続いています

1月17日(土)・18日(日)に大学入学共通テストが行われました。前日の16日(金)には、先生方から激励の言葉をいただき、代表生徒の決意表明も行われました。2月に入ってから各大学等の一般選抜が本格的に始まり、2月25日(水)・26日(木)には国公立大学二次試験の前期日程が行われました。一般選抜については、これまでに多くの私立大学等で合格発表が行われ、今後は、私立大学の二期(後期)以降の募集、国公立大学の前期日程の合格発表、国公立大学の中期日程・後期日程の試験等と続きます。健康に留意しながら、最後まで粘り強く努力を続け進路実現に向かっていきましょう。



## 卒業によせて

明日3月1日は卒業証書授与式が行われ、168名の3年生が鹿角高校を卒業します。3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。3年前、皆さんは花輪高校・十和田高校・小坂高校にそれぞれ入学しましたが、昨年度の4月に同じ校舎に集まり、鹿角高校生として一つ一つの活動をより充実したものにしようと常に挑戦し続けてきたのではないのでしょうか。今年度は開校2年目を迎えた鹿角高校の最上級生として、後輩たちだけでなく、保護者の方々や地域の方々など、多くの人に認められる功績を残し、鹿角高校の飛躍に大きく貢献してくれました。皆さんが高校生活を通して積み重ねてきた経験や身に付けてきた力は、これから皆さんが豊かな人生を送るための支えとなるはずです。進路先が内定している人も、今まさに進路実現に向かっていている人もいますが、それぞれが自分の足跡を糧として、各方面で益々活躍してくれることと期待しています。1・2年生の皆さん、先輩方が常に挑戦しながら切り拓いた道を、今度は皆さんが進んでいく番です。卒業式を迎える明日は、先輩方の門出をお祝いしつつ、改めて自分の目標を確認し、将来への見通しを立てる日にしましょう。

### <「失敗したから今がある 私の失敗談」> (遊びの心ナレーター、朗読 YouTuber いぬいゆうた さん)

もう四半世紀以上も前のこと。私の人生の最大の失敗とも言えるのが、就活で犯したミスでした。子どものころからラジオが好きだったので、大学時代に地方のラジオ局でパーソナリティを務めるアルバイトをしていました。バイトとはいえ、自分の声がラジオから流れる経験は病み付きになる魅力がありました。それが、職業としてアナウンサーを目指すきっかけとなりました。

出身地である北海道でAMラジオ放送を行っている民間放送局は2社だけでしたので、その両方のアナウンサー職に応募。当時A社はアナウンサー職と一般職の両方にエントリーが可能だったので両方に応募し、B社はどちらか一方しか受けられなかったためアナウンサー職のみエントリーしました。自信はありませんでしたが、思いのほか就活は順調に進み、両社ともアナウンサー職の1次試験を通過し、A社の一般職は早々に内定を頂くことができました。

B社は2次試験も通過し最終面接の案内の電話を頂いたとき、先方の担当者から「もし他局の内定を受けていて、そちらに就職される可能性が濃厚であれば、早めにご辞退も考えてほしい」と言われたのです。今ならもっとうまく立ち回れたかもしれませんが、学生だった自分はA社の一般職の内定を受けていたこともあり、気づくと丁寧に辞退していました。アナウンサーになる夢はA社に賭けるしかなくなりました。

ところがある日、A社の人事担当者からの電話に出ると思いも寄らぬ言葉が。「今日、2次試験でしたがどうしましたか？」

信じられないことに、私は2次試験の日程を翌日だと思っていたのです。当時は就活と代表を務めていた大学のサークル活動で多忙を極めていたとはいえ、考えられない痛恨のミスです。そんな私に、A社は、内定を出している一般職での入社意思を確認してくれ、即答で入社することを伝えました。そして私のアナウンサーになる夢は絶たれたのです。

就活の失敗を通して、自己管理の至らなさを痛感しました。凡ミスで夢を失ったことで落ち込み、しばらく自室に引きこもっていました。自分の性格上、自力ではどうにもできないときは、時が過ぎるのを待つしかない、時間だけが解決できることをなんとなく自覚していたのかもしれませんが、ひたすら反省しているうちに、少しずつ気持ちが回復していきました。何より一般職としてA社に入社できる。こんなミスをした私を受け入れ、チャンスを与えてくれたA社の懐の深さがありがたかったです。

一度失敗しても終わりではないと思えたのも会社が救ってくれたおかげです。それまでは就活がゴールかと思っていましたが、就活は社会人人生のスタートでしかなかった。それは中堅以上でも同じで、ある仕事でゴールだと思ったことでも、次の仕事へのスタートだったということに気づく。その繰り返しです。部下をもつようになってからは、部下が失敗してもそれで終わりではないこと、次のチャンスがあることを必ず伝えるようにしています。自分の失敗の経験を通して、他人に対しても早急に判断せず長い目で優しく見守ろうと、人の見方も変わりました。

30代のディレクター職時代に、何をやってもうまくいかず落ち込んだときもあります。でも40代になって気づいたのは、当時の自分になかったのは能力ではなく経験だということ。時間が経てば経験が増え、周りの環境も変わってできるようになることも多々ある。失敗は何もかもが自分のせいではないのです。

世の中の環境が変わって、YouTube という誰でも発信できるツールができた。そのおかげで私は今、会員の顔とは別に朗読 YouTuber として「自分の声で作上げたコンテンツをメディアで配信する」という、就活では失敗して一度は諦めた夢を叶えることができています。

失敗すると必ずそこから新たな学びを得られます。ゲームでは成功すると経験値が上がっていきませんが、人生は逆に、失敗した方が経験値が上がってレベルアップできると思うのです。だから人生を「自分育成ゲーム」だと思って、「失敗した方が成長できる。失敗は贅沢だ」というモチベーションでいろんなことにチャレンジした方が得ですね。高校生は学校というセーフティネットの枠にいられる間に、失敗する贅沢をたくさんしておけるといいですね。